

キヌサヤエンドウを加害するハナアザミウマの発生消長と防除対策について

和歌山県農業試験場 衛藤 夏葉・岡本 崇・高岸 香里*

はじめに

ハナアザミウマ (*Thrips hawaiiensis* (Morgan), 図-1) はアブラナ科, ウリ科, キク科等多数の植物に寄生し, 主に花に生息する。マメ類では, エンドウ, ソラマメ, インゲンマメ等に寄生し, エンドウではヒラズハナアザミウマ (*Frankliniella intonsa* (Trybom)), ネギアザミウマ (*Thrips tabaci* Lindeman) 等とともに莢に白ぶくれ症 (図-2A) を起こす (梅谷・岡田 編, 2003)。これは, アザミウマ類の産卵痕が白く膨れる症状であり, トマトやオクラでも発生が確認されている (豊田, 1972)。和歌山県のキヌサヤエンドウ (以下, キヌサヤ) 栽培では, 花に生息するアザミウマ類はハナアザミウマが多く, 本種がガクの黄化・枯死症状 (以下, ガク枯れ, 図-2B) を発生させることも確認されており (岡本, 2019), 近年, 白ぶくれ症とともに問題となっている。2013~20年にアザミウマ類による莢の被害発生状況を調査した結果, 発生圃場率は平均 95% と高かった (和歌山県農作物病害



図-1 ハナアザミウマ雌成虫

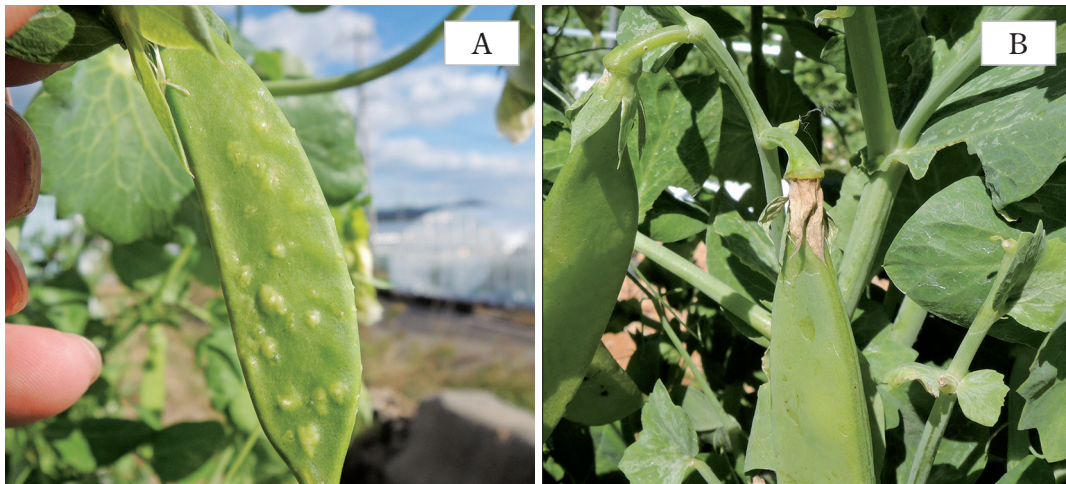


図-2 ハナアザミウマによるキヌサヤエンドウ果実の被害
A: 白ぶくれ症, B: ガク枯れ。

Seasonal Occurrence of *Thrips hawaiiensis* (Morgan) that Damage Garden Pea (Kinusaya Pea) and Its Control. By Kayo ETO, Takashi OKAMOTO and Kaori TAKAGISHI

(キーワード: ハナアザミウマ, 白ぶくれ症, ガク枯れ, エンドウ)

*現所属: 和歌山県農林水産部農林水産総務課